

教育評価とは

～OPPA という評価法について～

OPPA（一枚ポートフォリオ評価）については、拙稿No.10,17で少し触れましたが、今回は教育評価に関わって、改めて述べてみたいと思います。

教育評価とは、教育活動の目標に照らして学習者の到達度や教育効果を測定・判断し、指導方法の改善や学習の支援に役立てるプロセスです。単に成績を付けるためだけに行うものではなく、教育の質そのものを高めるための重要な手段になります。

私がこの評価法に関わったのは、山梨大学に勤務した時です。『子どもと教師の成長を結ぶ教育評価—OPP シートによる学習・指導と評価の一体化—』という若手教員研修会の担当を私がさせていただきました。当時、山梨大学の副学長をされていた堀哲夫教授がこの評価法の開発者であり、先生やその実践者に講師をお願いし、教育事務所単位で学習会を開催しました。私自身、OPPA の優れた点について多くのことを学ぶことができました。ちなみに、OPP シートとはOPPAのための評価シートのことです。

OPPA（One Page Portfolio Assessment）の特徴は次の点にあります。

1. 一つの単位における児童生徒の自己評価を1枚のペーパーにまとめる。（2枚以上にしない）
2. 教師による「本質的な問い」を入れる。
3. 児童生徒の自己評価とともに、教師の授業改善の資料とする。（指導と評価の一体化）

一般的にポートフォリオは多くの資料を蓄積させていくものですが、それはかなりの分量となります。その評価となるとまた大変です。OPP シートは、1枚で完結するゆえに評価もしやすいし、子どもた

ちも自己の変容を見取りやすくなります。一つの単位だけでなく、年間を通して行うことができ、教育評価を継続して積み重ねることが容易になるというメリットがあります。

堀先生が、「教師によっては、OPP シートが1枚で完結するというメリットを理解せず、勝手に加工して複数枚にしてしまったり、内容に手を加えて複雑化させてしまったりすることがある。その結果、手に負えなくなって途中で止めてしまう。評価は継続することに意味があるので、原則に沿った使い方をすることが肝要である。」とおっしゃっていたのが印象に残っています。

OPP シートの構造（児童生徒の記入欄）は、次のようになっています。

- ① 『単元名・氏名』を記入する欄【最初に設定】
- ② 授業者が問う『本質的な問い』に答える欄【単元学習のはじめと終わりに設定】
- ③ 毎時間の授業の『一番大切なこと（学習履歴）』を記入する欄【1時間ごとに設定】
- ④ 単元の学習後『児童生徒の自己評価（自身の変容）』を記入する欄【最後に設定】

以上です。これを1枚の紙にまとめます。

②の『本質的な問い』とは、その単位を通して、学習者に最も学んでほしいこと（単元で学ぶことの本質）を問うものです。その問いに対する答えを単元の最初と最後に記述させることで、学習者が自らの変容を自覚する、そのための問いであります。

『本質的な問い』を具体例で示しますと、「ひきざんってなあに（小1算数）」、「わたしたちはなぜ『やまなし』を学ぶのでしょうか？（小6国語）」、「音とは何か？（中学理科）」、「2乗のものと数ってなに？（中学数学）」、「よいクラスとは何ですか？

(学級会活動)」などです。(『OPPA でつくる授業』堀哲夫監修、中嶋雅子編著：東洋館出版社)から引用しました。)

③の、授業の『一番大切なこと』は、単に学習したことを羅列するのではなく、自分が今日の授業で一番大切だと思ったことを書く欄です。したがってこれには、正解はありません。正解はないけれど、書かれた内容が教師が意図していた授業目標とかけ離れている場合には、教師自身が反省しなければならないということです。それもこの評価法の大きな意味であり、教師に対する評価ともいえるでしょう。

単元の最後にもう一度、『本質的な問い』に対する記述があります。これは初めに示した「本質的な問い」と全く同じ問いなので、最初の記述と比べ、自身の変容を見取ることができます。

それを、④の『児童生徒の自己評価』の欄に記入します。そうすることによって、自身の学習の成果(成長)が見て取れるのです。自分を客観的に眺め、変容を認識する“メタ認知”ということになります。

OPPシートは以上のような構造でできています。ただ、これにはもう一つ、非常に重要な決まりがあります。それは、これを学習者の成績評価に使わないという大原則です。それをしてしまうと、児童生徒は本心を書かなくなり、よい成績をとりたい子どもは教師の思惑に合わせたような記述をしかねません。それではこのシートの意味がなくなります。あくまでも、OPPシートは、子ども自身の“メタ認知”、そして教師にとっての“指導と評価の一体化”のための貴重な資料であり、正解のあるテストのようなものではありません。

この評価法は、始めは「理科」という特定の教科から始まりましたが、現在ではすべての教科・領域

で活用できることが証明され、日本中で多くの実践例があります。

ちなみに、本町での職場体験活動(総合的な学習の時間)のOPPシートでは、本質的な問い「働くとはどういうことだと思いますか?」に対する記述として、多くの生徒が、初めは「お金をもらい、たいへんなことをやる。必要なものを手に入れるため。」のような記述をするのですが、学習後の同じ問いには「人のためにがんばり、自分のしたことが誰かの役に立つことに、やりがいを感じることも、働くことだと思った。」などと記述する生徒が非常に多くなります。ここに、生徒たちの変容が見て取れます。生徒たちは自分自身を客観的に見取り、教師はこの授業での成果や指導法について顧みるという効力があることが分かります。

OPPAについて興味がある方は、ぜひウェブサイトや書籍等で研究してみてください。また、本町にもOPPAの優れた実践家がおられますので、気軽に教育委員会にお尋ねください。

評価法は世の中に、あまた存在します。どれにも良い面があると思いますが、身近にこのようなすぐれた評価法があるということも知っていただき、今後の役にたてていただけたら幸いです。

(市川三郷町教育長 渡井 渡)

